



Forum Report

フォーラム
レポート

第 42 回日本頭痛学会総会

[2014年11月14日～15日]

第 42 回日本頭痛学会総会 (会長：鈴木倫保先生・山口大学大学院医学系研究科脳神経外科教授) が 2014 年 11 月 14 日～15 日、海峡メッセ下関にて開催された。この中で、Rami Burstein 先生をお招きしご講演いただいたランチョンセミナーと、さまざまな専門分野におけるミニマムエッセンスについて発表された特別企画を紹介する。

[ランチョンセミナー]

Clinical implications of peripheral and central sensitization to migraine treatment with triptans

座長 **鈴木則宏**

Norihiko Suzuki

慶應義塾大学医学部神経内科 教授

演者 **Rami Burstein**

John Hedley-Whyte Professor of Anaesthesia and Neuroscience, Harvard Medical School. Vice Chairman of Research, Department of Anesthesia and Critical Care, Beth Israel Deaconess Medical Center
Academic Director, Comprehensive Headache Center, Harvard Medical Faculty Physicians

片頭痛発作時におけるアロディニアの研究

片頭痛は、髄膜血管の三叉神経、延髄の三叉神経脊髄路核、視床を経て大脳皮質に至る経路が活性化されて発症する。

片頭痛患者では、片頭痛発作開始 5～10 分後に、頭がズキンズキンと心臓の拍動に合わせたように痛む。また、前かがみになったり、咳やくしゃみをすると、頭蓋内圧が上昇して痛みが悪化する。片頭痛発作時は、頭蓋内のわずかな圧力の変化でも痛覚線維は活性化される。三叉神経節を画像化して頭蓋内圧の変化を見ると、片頭痛発作時には三叉神経節の活性が変化しており、片頭痛は末梢からのシグナルに起因していることが示唆される。

片頭痛のないときは、三叉神経の温痛覚を司る神経核 (三叉神経脊髄路核) では、膜電位は変化せず、電気的活性も起こらない。一方、片頭痛発作時は、三叉神経脊髄路核においてシナプスが形成され、グルタミン酸が中枢ニューロンに放出されて、片頭痛開始から 20 分～4 時間後に膜電位が変化し、ニューロンが過敏化する (中枢性感作)。この中枢性感作により、髪をとかす、髪を結びあげる、洗髪、眼鏡・コンタクトレンズ・イヤリングの装着など、通常は痛みを感じない刺激を痛みと感じる頭部アロディニア (異痛症) や筋肉過敏が生じる。

片頭痛患者において、片頭痛のないときの皮膚の温度刺激に対する疼痛閾値を測定した。結果は、温刺激